

陸上運動部部便り

2006年10月号

京大戦

目次

1	京大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	3
1.5	試合結果	10
2	新主将・新女子主将・新主務の言葉	12
2.1	新主将の言葉	12
2.2	新女子主将の言葉	12
2.3	新主務の言葉	12
3	自己記録更新者一覧 2006.9.10~10.8	13
4	2006年度部内5傑 2006.10.8現在	13
5	主務より	14

1 京大戦

1.1 監督の言葉

善戦するも男女とも惜敗(男子8点差・女子6点差)

監督 寺田 秋夫

今年の最後の対校戦となる京大戦は京大主管で西京極陸上競技場で行われました。

七大戦以降、男子は5年ぶりの勝利、女子は5連覇で大会史上初のアベック優勝を目指して取り組んできました。

男子は、持記録から行けば20点くらい負けの勘定でしたが、直前に6年田中(走高跳)が戻って来てくれて15点差程度の状況でした。

今年は殆どの選手が試合で額面通りの結果を残してきたので、私としては巧くいけば今の力でも5点差までは迫れると予想しており、あと勝つに足りない

のは「京大の絶対のエースに勝つこと」「参考記録でも良いから快記録を数名の選手が出すこと」でした。

部員にも集合の都度、その旨を伝えてきて、選手も京大の短・障・中・投のエースにどう一泡吹かせるか、作戦を練って周到にやったと思います。結果的には全日本レベルの京大主将に800,1500mとも後塵を浴びせ、スコルクもしょうがない200mで3,4,6位をとり、昼過ぎの時点では競り勝てると確信していましたが、大幅勝越しを目論んでいたやり投・三段跳で京大の1年生や今シーズン不調をかこってきたエースの急場の力の前に点が伸びず、マイルリレーを残して4点差となり、リレーも善戦はしましたが及ばず8点負けとなりました。

部員にも「京大は今年の4年が4年間引っ張ったチーム。来年は飛車角落ちで東大が勝って当り前、今年の強い京大に勝つことにこそ意味がある」と発破を掛けて来ましたが、この試合になるとプラスアルファの力を出す京大の根の強さにやられてしまいました。

今日も東大には大きく取りこぼしたという選手はおらず、今のチームにこれ以上を求めるのは酷なところまで良くやったという満足感はあるものの、そこまでやっても勝てなかったのは本当に悔しい思いです。

しかし、最後の試合で数名の自己記録更新を含め4年生が活躍し、3年生も高得点の者が多く、不安だった短距離でそれなりに戦えるレベルをなったことを考えると、良い形でシーズンを終え、来期はもう1ランク上のチームにしていけると確信できる結果でした。

一方女子は、フィールド・短距離で京大の混成のエースに勝つのは困難なものの、東大は中長では向田(4年)・日下(1年)が頭抜けており、短距離で勝ち越せば総合でも勝ち、そうでなければリレー勝負という予想通りの展開でした。小原(4年)が100m・400mとも良い走りをするも2位に終わり、走幅跳で5跳目まで3位で万事窮したかと覚悟した6跳目で自己記録(4m87)をマークし2位をとり、3000m・4

繼に希望をつないだときには、最後はやれるかもしれないと思わせてくれました。

結局 3000m を終えた段階で、男子と同様 4 点差でリレーで京大が失格しても引き分けという展開で最後は力尽きてしまいました。

それにしてもマネージャーの河本 (4 年) まで借り出して、いつもながら良くやったものの、4 連覇を支えてきた今の 4 年生を最後に主役にしていられなかったのが残念でした。

女子チームは、今年は最後まで対校で勝てませんでしたが、いつも多種目出場で要所の種目では勝ち、善戦してきた姿は男子にも良い影響を与えてくれたと思います。

さて、中長距離は箱根駅伝予選を残しますが、竹内主将体制はここまでで、強いチームにしていく礎はしっかりできたと思います。来期は、男子は旧帝大との対校戦ではなく、もっと高いレベルの試合を目指すチームに、女子は人数が揃えば対校戦勝利を、人数が揃わなくても大きな試合にコンスタントに選手を送り出せるようにしたいと思います。

当日は遠方からも OB・OG の皆様のご足労いただいたにも関わらず、果敢しい報告をできず申し訳ございませんでした。が、レベルは様々ですが、選手はみんな、本当に良くやりました、私自身選手を誇らしく思いますし、労って頂ければと思います。

今後も変わらぬご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 竹内 昌男

昨年の京大戦大敗から比べると、今年の結果は「惜しかった」「よくやった」という言葉で形容されるかもしれませんが。しかしながら負けは負けです。今年も負けたのです。勝てなければ意味がありません。陸上競技は結果以外のものでも語られてはならないと私は思っています。勝った京大は強く、負けた東大は弱かった。それ以外のことに託けて今回の結果を語ってはならないと私は感じました。もしここで今回の結果に甘えてしまえば、また弱い東大へと逆戻りしてしまうでしょう。強いチームであるために我々は「今年も勝つことができなかった」ということを真摯に受け止め、次なる段階へと成長していかなければなりません。手前味噌かもしれませんが、1 年間私が率いてきたチームはそれができるチームへと成長したと信じています。

今回の京大戦で私の主将としての任務は終了となりますが、今年芽を出し始めたチームが来年大きな花を咲かせて大成できるよう、1 年間私自身が主将としての立場で培ったものは全て次代の倉員主将へと伝えていきます。私が成し遂げられなかった「関東インカレ 1 部昇格、京大戦優勝」という目標は必ず彼の率いるチームが達成してくれるはずです。これからはチームは上を目指す姿勢を忘れず、常に高い意識を持って競技に取り組んで参りますので、温かい目でそういうチームを見守っていただければと思います。また最後になりますが、このように至らない人間かつ選手ではありましたが、1 年間主将として私のような人間にチームを任せてくれたチームメイトたちに感謝をするとともに、皆様方にも厚く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 向田 恵

今年の京大戦は京都の西京極陸上競技場にて行われました。

始まる前から勝つのが大変厳しい試合であることは分かっていたのですが、優勝できると信じ部員一丸となつてのぞみました。

トラック競技では 4 年生の小原・向田、1 年生の山下が実力どおりの力を発揮して着実に点を稼ぎ、京大と同点に持ち込みました。しかし層の薄いフィールド種目で京大に 6 点差をつけられてしまい、東大は 2 位に終わりました。

結果は惜しくも勝つことはできませんでしたが、東大京大共に鎬を削り合った良い試合だったと思います。特に今回が最後の試合となる 4 年生の戦いぶりは 4 年間の集大成といえるような素晴らしいものだったと思います。

今回の京大戦で 4 年生 4 人が抜けて選手は 3 人となり、女子はリレーを組むことさえ厳しい状況になってしまいますが、男子部員と共に女子部員一同力を合わせて頑張っていってほしいと思います。

私は 2 年生の時から女子主将をつとめ 2 年間女子チームを引っ張ってきましたが、その間多くの OB・OG の方々や部員の皆さんに支えられてきました。皆さんの声援をうけ、自分もその期待に応えようと頑張り、成長する事ができました。

京大戦をもって私は引退いたしますが、今後も後輩たちへの暖かいご支援ご声援のほどよろしく願っています。

今まで本当にありがとうございました。

1.4 試合経過

トラック

10:30 男子 100m 決勝

2レーンに福田(2年)、4レーンに渡辺(1年)、6レーンに石田(1年)の出場。今期の記録から考えると勝ち越すことは難しく苦戦が予想されたが、京大の実力のある3、4年に対して1、2年という若さを武器に、予想を覆す走りが期待される。また、本日最初の種目ということもあり京大戦に勝利するためにも良いスタートを切りたい所である。

号砲とともに先頭を切って飛び出したのは渡辺と優勝候補の石田(京大)。しかし渡辺は加速の段階で徐々に離され、最後までその差を埋めることはできずに11"10の2位でゴール。同じく勢い良くスタートしたのは石田。自慢のパネのある走りで中盤までは3位を守っていたが、終盤で京大の選手にかわされ惜しくも11"21の4位でゴール。僅かにスタートで出遅れてしまった福田は中盤で足につるような違和感を覚えて失速、なんとかゴールまで体を運び16"73の6位でゴール。この時の風は+1.0mであった。

3人とも自己ベスト等から考えて決して満足のいくレースではなかった。しかしまだまだ活躍の場は残されており、来年・再来年とより一層の活躍が期待される。

10:35 女子 100m 決勝

3レーンに大久保(1年)、5レーンに小原(4年)の出場。たまに小雨が降ったり、トラック上の風は不安定であったりと、グラウンドコンディションは安定しない。そんな中、まだ1年の大久保と、今回で対校選手としては最後の100mとなってしまう小原の二人によるレース。どれだけ京大相手に良いレースをするのが期待された。

小原は良いスタートを切るものの優勝候補の早瀬(京大)に先を行かせてしまう。しかし中盤から追い上げ、最後の最後まで追い詰めるも届かず12"99の2位でゴール。1位を取ることではできなかったものの、追い風参考記録ながら自己ベストタイ記録であり、4年として、そして女子短距離エースと

して素晴らしい走りであった。一方、大久保はスタートから若干の遅れをとってしまう。その後も追い風が強くて自分の走りができず中盤の伸びが思うように行かない。しかし最後まで諦めず粘りのある走りを見せ14"14の4位でゴール。満足のいかない結果ではあったが、まだまだポテンシャルのある選手であり経験を積んでいくうちに着実に力をつけていこう。この時の風は+2.9mであった。

10:45 男子 1500m 決勝

黒澤(4年)、石原(3年)、松本(3年)の出場。東大の出場選手全員が3分台のベストを持ち、京大の岡本との勝負に加え、大量得点に期待が集まる。

5000mを控える石原、松本を考えてか、序盤は黒澤がレースを引っ張り、松本、石原は後方で様子を伺う形となる。400mの通過は64秒前後と、なかなかの高ペースとなる。700mをやや過ぎたところで松本が先頭に立ち、レースを引っ張る形となる。石原は徹底的に岡本をマークする。黒澤は中距離練習の不足からか、やや後退してしまう。松本は1000mでスピードを上げ、後続を引き離しにかかる。これに素早く対応したのは石原であった。石原はうまく流れに乗って加速すると、1300mで2番手に上がる。石原はそのまま岡本を後ろに従えて残り100mで松本を抜き去り、岡本とのスパイク勝負を制して見事4'00"65の1位でゴール。すばらしい勝負強さを見せた。松本は石原、岡本には抜かれたものの、そのまま順位をキープ、4'01"83の3位でしっかりと仕事を果たした。黒澤は粘りを見せたものの、京大の2番手との勝負に敗れ、4'06"36の5位でゴール。やや悔しい結果となった。

この種目で東大は3点勝ちとなった。

11:00 男子 110mH 決勝

3レーンに梅沢(4年)、5レーンに尾崎(2年)、7レーンに堀内(2年)の出場。

梅沢と尾崎が号砲に好反応を見せ、序盤の主導権を握る。その後40m付近から尾崎が抜け出て、中盤から後半にかけても危なげないハードリングを披露。そのまま逃げ切り、14"97の1位でゴールした。一方の梅

沢は30m付近から両側の選手に追いつかれ苦しいレース展開となったが、最後まで粘りの走りを見せ、5位ながら自己ベストの15"51でゴール。競技生活を締めくくる引退試合に自ら華を添えた。堀内はスタートにやや失敗、また終盤にはハードルに接触するなど本来の力を出せぬまま18"32の6位に終わった。このとき風は+1.3mであった。

12:05 男子 400m 決勝

2レーンに梶岡(2年)、4レーンに深澤(2年)、6レーンに伊勢田(4年)の出場。実力に勝る京大に何とか食いつき意地を見せたいところ。

梶岡は序盤、順調な滑り出しを見せる。しかし中盤からの伸びは見られず順位を上げることができず51"76の4位でゴール。深澤は序盤から積極的な走りを見せ先頭を走る京大の選手に食いついていく。深澤と京大の選手2人を含めた3人が並んだ形でラスト100mの直線に入り込むが深澤はラスト50m付近で大きく失速。前半積極的にスピードを出したことによる疲れが表れてしまった。結局京大勢には競り勝つことができず、51"20の3位でゴールした。4年生としての緊張からか、伊勢田は序盤から走りが硬く切れのある走りを見せる事ができない。後半も思う様に体が動かないが、何とか京大の選手1人を抑え51"90の5位でゴール。納得のいくレースではなかったがその後の400mHへと気持ちを切り替えた。

12:10 女子 400m 決勝

3レーンに日下(1年)、5レーンに小原(4年)の出場。

日下は序盤出遅れてしまい、1人後ろから追いかける形となる。中盤はうまく足も回り徐々に前方との差を縮め、最終的に京大の選手を1人抑えて63"36の3位でゴール。持ち前の持久力を活かした走りを見せることができた。小原は序盤から積極的な走りを見せバックストレートで首位に立つ。しかし後ろから京大の早瀬にしっかりと付かれてしまい振り切ることができない。後半、持久力が持たずスピードが落ちてしまい早瀬に追い抜かれてしまう。その後も早瀬との距離を詰めることができず62"61の

2位でゴールした。

12:30 男子 4 × 100mR 決勝

4レーンに石田(1年)-渡辺(1年)-福田(2年)-尾崎(2年)の走順で出場。1,2走の石田、渡辺1年生コンビは共に100mで快走、3走の福田は足が付きやすい状態ではあったが調子は良好、4走の尾崎は110mHで優勝とチームの状態は良く、さらに七大会でのリベンジにチームの士気も十分高まっていた。京大は100mで優勝した石田を1走に起用しており前半で差をつけて逃げ切る作戦であろうか。天気は快晴、ホーム側に強めの追い風が吹く中、号砲とともに2校同時にスタートした。

今シーズンスタートが好調な石田は、前半京大との差を保ったまま後半まで持ち込む。ここからどれだけ粘れるかが課題であったが、京大の石田も好調であり差を少し離されてしまう形で2走渡辺につなぐ。バトンパスはうまくいった。渡辺は向かい風の中、気迫の走りで後半にかけてだんだんと京大の背中に近づく。3走へのバトンパスは少しまごついてしまったが、それ以上に京大がミスをし、ここで一気に差が縮まる。足の状態が気になる福田は、前半なめらかな加速を見せ京大に追い込みをかけてコーナーをまわる。しかし後半再び足が付き気味になってしまい、片足をかばうような形で4走尾崎に。ここで少し遅れをとってしまう。コーナーがあけた時点で10m弱の差で京大がリード。4走尾崎に望みをかけて応援にも熱が入る。猛追をかけたい尾崎は一気に加速、京大4走水谷の背中に懸命に食らいつくが、さすがに水谷も逃げ切ろうと必死であり差がつかず、そのまま京大が逃げ切り後を追うようにして42"91の2位でゴール。

4人ともこの種目には相当な気合いが入っていただけに、悔しい結果となってしまった。しかし4人ともまだ1,2年生。この悔いを次に、来年にしっかりとつなげてほしい。

12:45 男子 800m 決勝

新井(4年)、小澤(3年)、野村(1年)の出場。優勝するためにこの800mに出場を絞った新井と七大会中距離種目2冠の岡本(京大)との勝負に注目が集まった。

両選手だけでなく実力者が揃い、激しいレース展開が予想される中、レースはスタート。野村が勢いよく飛び出しそのまま先頭に立つかと思われたが、初めての対校戦での気負いが、普段の練習でみせる積極性は影を潜め、最後尾についてしまう。しかし野村の勢いあるスタートは他の選手を刺激し、レースは始めから一線に並ぶ展開となる。新井は先頭を引っ張る京大の選手の後ろにつき、小澤は中盤で岡本をマークするようにしてレースを進める。400mを57秒という新井にとっては絶妙なペースで通過する。新井はバックストレートでついに先頭に立つ。背後から岡本が一気に迫ってくるかと思われたが、七大会で見せたような勢いはない。残り200m待たずして新井は得意のラストスパートを放ち、一気に後ろの選手との差を1秒近く広げる。そのまま、相手に追従を許すことなく1'55"77の1位で歓喜のゴールに駆け込んだ。小澤は岡本に徐々に離されるも、最後のスパートに望みを残す。何とか京大の3番手には競り勝ったが、レース後半の速度変化への対応など課題の残る1'58"62で4位という悔しい結果となった。野村は終始最後尾での苦しいレースとなり、2'00"13で6位に終わった。

今年で新井が卒業となり、エースがいなくなってしまうだけに東大の800mの将来を握る2人の来シーズンの奮起を期待したい。この種目で東大は1点負けとなった。

12:50 女子 800m 決勝

向田(4年)、日下(1年)の出場。2人の実力からすれば上位独占は確実視されていたが、向田は3000mを控え、日下は30分前に400mを走り終えたばかりという厳しい状況でレースはスタートした。

スタート直後から日下が果敢な飛び出しを見せ、一気に独走体勢に。そのまま日下は疲れを見せることなくハイペースを維持し、独走ながらも大会記録に迫る2'22"83の1位でゴールした。一方、いかに省エネで勝つかが問題であった向田は3人となった2位集団の先頭に立ち、レースを進める。残り300mで京大の1番手の選手と一騎打ちになり、最後の直線まで勝負はもつれる。残りわずかなところで相手に一瞬前に出ら

れ、ひやりとさせたが、冷静かつ切れ味のあるスパートを放ち、2'29"24の2位でゴールした。

両選手とも実力を発揮し、力の差を見せたレースであった。見事なスコルク勝ちで東大は7点を獲得した。

13:15 男子 200m 決勝

2レーンに渡辺(1年)、4レーンに瀧山(4年)、6レーンに今村(3年)の出場。

東大の3選手はまずまずのスタートで無難な立ち上がりを見せる。前半は京大の石田が体一つ抜けていく展開。残りの選手はあまり差の無いままに50mを通過。コーナーを抜けていく中で徐々にレースはスピードが上がっていく。コーナーをうまく抜け出した瀧山と渡辺は2位集団に。ここで今村のスピードが思うように上らず若干の遅れをとってしまう。直線に入ってから、瀧山は重心を捉えたしっかりしたフォームでスピードに乗り、渡辺も力強い走りを見せる。ここで、1位の石田との差は開いてしまっていたが、京大の白方・瀧山・渡辺の熾烈な2位争いが展開される。今村も後方から必死の追い上げを見せ、なんとかして前を行く京大の大野を捉えたいところ。150mを過ぎた辺りから、瀧山と渡辺は白方に差を広げられてしまい後を追う展開に。瀧山は足の動きが若干悪くなるが粘り強く前にくらくらつき22"39の3位でゴール。引退する4年としての底力を見せた。100m、4×100mRの疲れもあってか、渡辺はラストでスピードがいまひとつ伸びず、最後の競り合いで後退してしまい22"48の4位でゴール。今村は終盤左脚が痙攣を起し大きく失速。しかし1点を取るべく意地で走りきり23"23の6位でゴール。この時風は+3.2mであった。

13:40 男子 400mH 決勝

2レーンに門脇(2年)、4レーンに伊勢田(4年)、6レーンに相川(4年)の出場。京大の選手とは力の差があり、厳しい状況ではあったがなんとか3番手を抜かして点を稼ぎたい。

最も期待されていた伊勢田ではあったが、このところ調子を崩していたためかハードリングが安定せず、いつもの走りが全く

できず序盤から出遅れてしまう。門脇は前半慌てずに安定したハードリングを見せ、食い下がるも最後は体力不足が響き、失速してしまう。また持ち前の走力と器用さを買われて400mHに出た相川であるが、序盤落ち着いた走りを見せるもやはり経験の差からか、終盤ハードル裁きが悪くなり差をつけられてしまう。結局8台目を終えたあたりで京大勢との差は決定的となり、相川が57"71の4位、門脇が58"96の5位、伊勢田が61"08の6位でゴール。京大のスコク勝ちを許してしまった。

確かに非常に厳しい状況ではあったが、3選手ともベストの走りができないままに終わり勝負することができなかった。この敗北を糧に来期に向けてのレベルアップを期待したい。

14:00 女子 3000m 決勝

向田(4年)、清水(4年)の出場。4年生の2人にとってはこれが最後のレースである。

向田は先に走った800mの疲れを考えてか、序盤は京大の中村に引っ張らせて2番手につき、様子を窺う。清水は4番手につく。600mまで1つだった集団は、向田と京大の中村、清水と京大の川口の2集団に分かれる。1000m手前で向田が先頭にたつと、1000mを3'37、次の1000mを3'38と、ほぼイーブンペースながら徐々に差を広げていく危なげない走りを見せる。結局、2位に30秒近い差をつけて10'54"33の1位でゴール。女子主将として女子チームを引っ張ってきた向田に相応しい見事なレース、そして優勝だった。清水は2集団に分かれたあと、3番手とも差が開いてしまい、最後尾での苦しい走りとなる。最後まで懸命に前を追いかけるも、力及ばず12'29"96の4位でゴール。やや悔しさの残るラストランとなってしまったが、持ち前の粘りを見せることはできた。

この種目は東大、京大ともに5点を獲得することとなった。

14:20 男子 5000m 決勝

石原(3年)、斉藤(3年)、松本(3年)の出場。

スタートから集団のまま3'00"/kmのペースでレースは進むが、1200m辺りから

斉藤と京大の選手2名が徐々に遅れ始め、先頭グループは近藤(京大)を先頭に松本、石原の3名となった。2000mを6'04"で通過すると、2200m過ぎからは松本が先頭に出て、石原、近藤との差をどんどん広げ始める。松本はその後危なげない走りで後続を突き放し、15'11"00の1位でゴール。一方、石原と近藤は互いに譲らず2位争い、更に20秒遅れて斉藤と京大の2番手が4位争いを繰り広げ、それぞれで一騎打ちを行う展開となった。石原はラスト1周で猛スパートをかけ、粘る近藤を2、30m引き離し松本に続く15'20"61の2位でゴール。石原と松本は1500mにも出場し1位、3位の結果を残していたがその疲れを感じさせない走りぶりであった。斉藤も意地の走りで京大の2番手との勝負を制し15'52"10の4位でゴール。箱根駅伝予選会を2週間後に控え、長距離を引っ張る3年生の3人が一挙に14点をもたらす力強い走りを見せた。

14:50 女子 4 × 100mR 決勝

4レーンに大久保(1年)-小原(4年)-宮崎(3年)-日下(1年)の走順で出場。今季ベストで1秒上をいく京大に対し、選考会で向田(4年)に勝った宮崎をメンバーに。また、スピードのある日下を4走に起用して勝負を挑む。

1走大久保はまずまずのスタートをきると、アウトレーンを走る京大とほぼ互角のレースを展開し、2走小原へのバトンパス。100mで優勝した京大の早瀬を相手に、小原は全く離されることのない見事な走りを見せる。しかし、3走宮崎の飛び出しのタイミングが早すぎ、急ブレーキをかけてバトンを受けたため、京大に先行されてしまう。そこから何とか前を追う宮崎だが、4走日下も練習のときを上回るスピードで飛び出してしまい、宮崎は追いつけない。大声で日下を減速させゾーンオーバーだけは必死に防いだが、日下が再び加速し直したときには、京大との差は10m以上。日下のスピードでも追いつける距離ではなく、54"73の2位でゴール。

走力面では京大に引けを取らないメンバーであっただけに、悔やんでも悔やみきれない結果となってしまった。小原は引退

してしまうが、今後残る3人はこの失敗を決して忘れず、来シーズンのリレーチームを作っていくほしい。

15:00 男子4×400mR 決勝

4レーンに深澤(2年)-相川(4年)-梶岡(2年)-伊勢田(4年)の走順で出場。このたびの京大戦は総合優勝をかけた得点争いが最終種目までもつれこむ大接戦であり、勝敗を決するリレーに応援も熱が入る。

1走の深澤は、前半の強い向かい風を意識してか控えめな立ち上がり。そのため内側3レーンを走る京大に早くもバックストレートで抜き去られてしまう。しかし、後半に温存していた深澤は続くコーナーから盛り返し、京大との差をそれ以上開かせない。ホームストレートに入ってさらに粘りを見せて猛追し、京大の選手と並走するまでに差を縮めて2走につないだ。続く相川はかなり慎重な滑り出し。あっという間に差が開き、コーナーを抜ける時点で20mほど離されてしまう。しかしバックストレートに入ってから差は広がらず、むしろじりじりと距離を詰めながらホームストレートに。最後の直線でも徐々に差を縮めていくが、京大の選手も粘り強く、結局10mほど先行されたままバトンパス。3走の梶岡は前半から果敢に攻め、コーナー、バックストレートで徐々に差を詰めていく。第3コーナー入り口にさしかかる時点では京大のすぐ後ろにまで迫り、応援も大いに沸きあがる。そのまま抜けるかと期待されたが、さすがに疲れが出たのかそれ以上は縮まらない。ホームストレートに戻ってくると若干離されるも最後の粘りを見せ、バトンを受けたときよりも差を縮めてバトンをつないだ。アンカーの伊勢田は多種目出場の疲れもあってか走りに精彩を欠き、一気に20m近い差をつけられてしまう。それでもバックストレートから第3コーナーにかけては我慢の走りをして、それ以上離されずに逆転のチャンスをうかがうが、京大のアンカーが残り150mほどで猛然とスパート。これには歯が立たず、さらに差を広げられてしまうが、最後まで手を抜くことなく走りきり。3'26"63の2位でゴール。

記録だけ見れば非常に残念な結果であっ

たが、地力に勝る京大に大差をつけられることなく食らい付いていった試合内容は評価でき、最終種目に相応しい白熱したレースとなった。

フィールド

10:30 男子走高跳 決勝

田中啓(6年)、持永(4年)、倉員(3年)の出場。フィールド最初の種目であったので、ここで点数を大幅にリードして今後に勢いをつけていきたいところであった。

倉員は1m65から試技を開始。1m65は1跳目で難なく成功するも、次の1m70は1跳目を失敗してしまう。しかし、2跳目ではしっかりと修正して成功する。次の1m75は3跳ともに高さが足りずに失敗し、ここで試技終了。持永も倉員と同様1m65から試技を開始する。1m75までは、いつものように流れた跳躍ではあるものの、十分に高さのある跳躍で、1跳目でクリアしていく。1m80では1跳目に足が引っかかって失敗してしまうが、2跳目は十分な高さで成功する。次は、成功すれば自己ベストとなる1m85であったが、力んでしまったり、踏切ができなかつたりと、3跳とも失敗。1m80を成功した時点で、十分に高さが足りていたため自己ベストが期待されたが残念であった。田中は、久しぶりの試合であるため、1m70から試技を開始。自己記録が2m00の選手であるので、あっさり1m85まで成功させ、この時点でもう優勝を決めてしまう。その後もどんどんバーの高さを上げていき、とうとう2m00まで到達する。2m00では1跳目を失敗したものの、2跳目できちんと成功させた。次は大会記録更新を狙って2m06に挑戦するが、惜しい跳躍はあったものの、3跳とも失敗してしまった。結果は田中が2m00の1位、持永が1m80の2位、倉員が1m70の5位で、京大に5点差勝ちであった。

10:30 男子ハンマー投 決勝

合田(4年)、庄司(3年)、寺島(1年)の出場。時折小雨が降り、強い風が吹く中競技が開始された。

寺島は緊張したこともあり、5投連続でファールしてしまう。6投目でもターンの

途中でバランスを崩すが、ファールを避け5m44の記録を残し6位となった。合田は1投目から30m近い安定した投擲を見せ、徐々に記録を伸ばしていき、6投目に自己記録更新となる34m59を投げ3位となった。庄司は2投目に37m64を投げ、更に記録を伸ばそうと思いついた投擲を重ねるが記録は伸びず2位となった。

11:30 男子走幅跳 決勝

竹内(4年)、武安(2年)、尾崎(2年)の出場。この種目は京大との実力差は明らかで、身内での勝負となった。常時2m前後の追い風が吹き、コンディションは絶好だったが、チップ入りの柔らかいトラックだったため、3人とも助走スピードがいまいち上がらなかった。

武安は若干オーバーストライド気味で、2跳目、3跳目と徐々に修正はしていったが、4跳目以降は記録を伸ばせず、6m96の3位に終わった。竹内は最後の対校戦ということで4年間更新できていない自己ベストを跳んで優勝すると意気込んでいたが、柔らかいトラックに苦しみ、前半は7mも跳べなかった。後半は強い追い風にも慣れてきて7m08を跳んだが、2位に終わってしまった。尾崎は前半強い追い風のせいでなかなか足が合わないながらも、7m14、7m22を記録。特に7m22の時は、踏切時にリズムアップできずオーバーストライド気味になっていたため、更なる好記録が期待できただけに惜しい結果であった。後半はリレーがあったため記録を伸ばせなかったが、この7m22の記録で優勝し、2連覇を達成した。

11:30 女子走幅跳 決勝

小原(4年)、大久保(1年)の出場。

大久保は強い追い風のせいで最後まで足が合わず、4m25の4位に終わった。この種目の練習をあまり積んでおらず、踏切時のリズムアップや空中動作、着地の技術がまだまだ未熟であるので、これからの伸びに期待したい。小原も前半、強い風のせいで足が合わず、記録が伸びなかった。しかし、後半は徐々に足も合うようになり、うまくひっかければ5mは跳べそうな感じであったが、途中で400mが入ってしまい、誰もがこれまでかと思った。しかし、400mを

走った後も全く疲れを見せず、6跳目にはうまく追い風によって4m87の自己ベストを記録し、逆転で2位となった。

11:45 男子円盤投 決勝

合田(4年)、小林(3年)、庄司(3年)の出場。円盤投はハンマー投に引き続いて補助競技場で行われた。

合田は今年も優勝が確実視されていた。しかし、最初の2投は、重心の感覚をハンマーから上手く切り替えられず、あわや京大の1番手に敗れそうになってしまう。それでも、6投をフルに使って投擲を修正し、6投目の37m30で1位を決めた。小林は夏の練習の成果を出し、京大の2、3番手と勝負したいところである。その期待に応え、小林は最初から1年前に出したベストを上回った。前半終了時で、京大の3番手との差はほとんどない。しかし、後半京大勢が調子を上げてきたため、1m近く離されてしまった。結局3投目の31m68に3m近くベストを更新したものの、5位になった。庄司は今シーズンを通じてハンマーと円盤の両立に苦しんでいた。今回は、ハンマーに重点を置いていたためか、ターンが円盤としては小さなものになってしまった。そのため、記録はあまり伸びず、27m86で6位に終わった。

この種目で、東大は9点、京大は12点獲得し、3点負けとなった。

13:15 男子棒高跳 決勝

持永(4年)、木村(3年)、大谷(2年)の出場。

木村は3m00から試技を開始。七大戦と比べると、突っ込み動作から振り上げ動作までの流れがスムーズとなり、3m00・3m20ともに余裕のある跳躍でクリアする。持永も試技開始の高さ3m20を1回でクリア。バーの高さは3m40へ。1跳目、木村はポールを出すタイミングが遅れたため、持永は踏み切り位置が入り過ぎてしまったため失敗。しかし2跳目ではうまく修正して両者クリア。バーの高さは3m50へ上がる。ここで大谷が試技を開始。脚の怪我が懸念されたが余裕をもってクリアする。この時点で東大のスコンク勝ちが決定した。持永もこの高さをクリアした。木村はより固いポール

で臨んだが、上手く入りきれずに体が上がらない。3跳目は惜しい跳躍であったがこの高さをクリアできなかった。続いての高さは3m90。持永のみが挑戦したが、胸が入らず流れた跳躍となってしまう失敗。大谷は4m00に成功した後、4m30へバーを上げる。しかし脚の怪我もあってか失敗してしまった。結果は大谷が4m00で1位、持永が3m50で2位、木村が3m40で3位であった。

13:30 男子砲丸投 決勝

合田(4年)、持永(4年)、小林(3年)の出場。風が強く、テントが飛ばされそうになる中で競技が開始された。

小林は1投目に10m61を投げ、順位を上げにかかる。しかし2投目以降、タイミングが合わずに記録を伸ばすことができず、そのまま4位で終える。持永は棒高跳と並行しながら合間に砲丸を投げるが、最後まで合わせる事が出来ずに10m50の記録を残し5位となる。合田は砲丸をしっかりと押す投擲で合わせようとするものの、本日3つ目の投擲種目であり疲れが出たのか、押しきれずに10m33で6位であった。

全員が京大の3番手に追いつくことができず、対校得点に大きく差をつける結果となった。

13:30 女子砲丸投 決勝

河本(4年)、宮崎(3年)の出場。

宮崎は久々に砲丸に出場しながらも、改良を加えたフォームで自己ベストを50cmほど更新して6m50をマーク。河本も数センチずつではあるが、投げるごとに記録を伸ばし、自己ベストを20cmほど更新して6m01を出した。

2人ともベストを出して全力を發揮した試合であった。しかしながら、京大の選手2人はどちらも6m50を超え、結果的には河本が3位、宮崎が4位となった。

14:00 男子三段跳 決勝

竹内(4年)、倉員(3年)、武安(2年)の出場。強い追い風が吹いていたため、各選手とも踏切位置の調整に苦しんだ。

竹内は対校戦最後の跳躍。走幅跳到ついでに試技で、5本目、6本目あたりの跳躍

では疲労も垣間見えた。しかしジャンプで距離を伸ばし、6本目で13m58を記録。その結果京大選手一人を押さえて5位であった。倉員は3本目で14m01を跳び、まずはしっかりと記録を残した。そして最後の6本目で14m27を記録し、優勝したかに思われた。しかしその直後、追い風に乗った京大の吉良に14m36で逆転され、惜しくも2位に終わった。武安も走幅跳到ついでに試技で、持ち記録からすると苦しい展開となった。強い風に合わせて器用に助走開始位置・スピードを調整するも、スピードを跳躍に生かされず、14m11で3位。七大戰での大ジャンプがあっただけに、それと比較すると多少物足りない結果となってしまった。

この種目での東大の得点は11点。辛勝だった。来年に向けて、この冬、特に3番手の成長が求められるだろう。

14:00 男子やり投 決勝

石井(5年)、関原(3年)、北川(2年)の出場。向かい風が強く、大変難しいコンディションの中での試合となった。このような状況の中、槍を風に逆らわずに押し出せた京大の佐藤とそれができなかった東大勢が勝負の明暗を分ける結果となった。

石井は1週間前の選考会で51mを超える投擲を見せており、この試合でも1投目から47mを超えるなかなかの立ち上がりを見せた。しかし、強い風に押し戻されて助走が伸びず、さらに後半になると槍が立ち始めてしまい本来の力を出し切れなかった。結果47m61で4位であった。関原も前半は強い風にあおられて失敗投擲を続け、前半を5位で折り返した。しかし後半3投は風が弱まった間隙をうまく突いて投げ、4投目に京大の2番手を逆転すると、5投目には復帰後ベストとなる49m22、6投目にも48m87を投げ、何とか3位に食い込んだ。優勝候補と目されていた北川はその実力通り、1投目から50m55を投げトップに立った。しかし、じわじわと記録を伸ばしてきた京大の佐藤に3投目で逆転を許すと、それ以降はひじを痛めてしまい満足のいく投擲ができなかった。結果50m55で2位であった。

この種目東大は2,3,4位で3点勝ちとなった。

1.5 試合結果

第79回東京大学 京都大学対校陸上競技大会
第5回東京大学 京都大学対校女子陸上競技大会

於 西京極陸上競技場 (H18.10.8)

男子 100m 決勝 (+1.0)

1	石田真大	京都大	10.80
2	渡辺裕太	東京大	11.10
3	白方朗史	京都大	11.17
4	石田貴巳	東京大	11.21
5	大野敦史	京都大	11.33
6	福田篤	東京大	16.73

男子 200m 決勝 (+3.2)

1	石田真大	京都大	21.80
2	白方朗史	京都大	22.28
3	瀧山健	東京大	22.39
4	渡辺裕太	東京大	22.48
5	大野敦史	京都大	22.61
6	今村岳	東京大	23.23

男子 400m 決勝

1	白方朗史	京都大	50.55
2	水谷太郎	京都大	50.69
3	深澤真楠	東京大	51.20
4	梶岡利之	東京大	51.76
5	伊勢田明弘	東京大	51.90
6	涌井健策	京都大	52.69

男子 800m 決勝

1	新井邦生	東京大	1:55.77
2	岡本英也	京都大	1:57.59
3	佐藤翔士	京都大	1:58.26
4	小澤聡	東京大	1:58.62
5	前川真彦	京都大	1:59.12
6	野村圭吾	東京大	2:00.13

男子 1500m 決勝

1	石原宏尚	東京大	4:00.65
---	------	-----	---------

2	岡本英也	京都大	4:01.04
3	松本翔	東京大	4:01.83
4	小山裕之	京都大	4:05.37
5	黒澤徹也	東京大	4:06.36
6	平子達也	京都大	4:19.24

男子 5000m 決勝

1	松本翔	東京大	15:11.00
2	石原宏尚	東京大	15:20.61
3	近藤学宏	京都大	15:23.65
4	斉藤俊	東京大	15:52.10
5	櫻井研吾	京都大	15:54.68
6	前田達朗	京都大	16:48.47

男子 110mH 決勝 (+1.3)

1	尾崎翔	東京大	14.97
2	水谷太郎	京都大	15.09
3	萩澤佑樹	京都大	15.20
4	白方朗史	京都大	15.41
5	梅沢啓	東京大	15.51
6	堀内敦史	東京大	18.32

男子 400mH 決勝

1	井上智志	京都大	56.24
2	水谷太郎	京都大	56.87
3	白方朗史	京都大	56.99
4	相川啓佑	東京大	57.71
5	門脇啓太	東京大	58.90
6	伊勢田明弘	東京大	61.08

男子 4 × 100mR 決勝

1	京都大	42.31
2	東京大	42.91

(石田-渡辺-福田-尾崎)

男子 4 × 400mR 決勝

1	京都大	3:22.92
2	東京大	3:26.63

(深澤-相川-梶岡-伊勢田)

男子 走幅跳 決勝

1	尾崎翔	東京大	7m22
2	竹内昌男	東京大	7m08
3	武安光太郎	東京大	6m96

4	高橋孝治	京都大	6m65
5	谷口康晴	京都大	6m35
6	萩澤佑樹	京都大	5m47

男子三段跳決勝

1	吉良佳晃	京都大	14m36
2	倉員智瑛	東京大	14m27
3	武安光太郎	東京大	14m11
4	北島明文	京都大	13m73
5	竹内昌男	東京大	13m58
6	高橋孝治	京都大	12m80

男子走高跳決勝

1	田中啓	東京大	2m00
2	持永新	東京大	1m80
3	松久佳弘	京都大	1m75
4	三浦裕介	京都大	1m70
5	倉員智瑛	東京大	1m70
6	皆川広太	京都大	1m60

男子棒高跳決勝

1	大谷真人	東京大	4m00
2	持永新	東京大	3m50
3	木村剛	東京大	3m40
4	三浦裕介	京都大	3m30
5	萩澤佑樹	京都大	3m20
6	田端康平	京都大	2m80

男子砲丸投決勝

1	森川陽介	京都大	11m90
2	田中聡一	京都大	11m33
3	島田研志郎	京都大	11m20
4	小林宗隆	東京大	10m61
5	持永新	東京大	10m50
6	合田隆彦	東京大	10m35

男子ハンマー投決勝

1	田中聡一	京都大	45m30
2	庄司宇	東京大	37m64
3	合田隆彦	東京大	34m59
4	佐藤慎祐	京都大	29m44
5	加納侑直	京都大	25m25
6	寺島孝明	東京大	5m44

男子円盤投決勝

1	合田隆彦	東京大	37m30
2	森川陽介	京都大	33m64
3	田中聡一	京都大	32m36
4	佐藤慎祐	京都大	32m20
5	小林宗隆	東京大	31m68
6	庄司宇	東京大	27m86

男子やり投決勝

1	佐藤慎祐	京都大	51m22
2	北川昴広	東京大	50m55
3	関原孝之	東京大	49m22
4	石井仁也	東京大	47m61
5	萩澤佑樹	京都大	45m75
6	有山啓史	京都大	41m61

男子トラック順位

1	京都大	103
2	東京大	81

男子フィールド順位

1	東京大	91
2	京都大	77

男子総合順位

1	京都大	180
2	東京大	172

女子100m決勝(+2.9)

1	早瀬紗也佳	京都大	12.80
2	小原明恵	東京大	12.99
3	富田夏希	京都大	13.72
4	大久保渥子	東京大	14.14

女子400m決勝

1	早瀬紗也佳	京都大	60.30
2	小原明恵	東京大	62.61
3	日下桃子	東京大	63.36
4	林奈央	京都大	67.71

女子800m決勝

1	日下桃子	東京大	2.22.83
2	向田恵	東京大	2.27.87
3	古林暁子	京都大	2.29.24

4 横田裕子 京都大 2.35.90

女子3000m決勝

1	向田恵	東京大	10.54.33
2	中村有里	京都大	11.22.02
3	川口紗弥香	京都大	11.38.04
4	清水里紗	東京大	12.29.96

女子4×100mR決勝

1	京都大	53.49
2	東京大	54.73

(大久保-小原-宮崎-日下)

女子走幅跳決勝

1	早瀬紗也佳	京都大	5m38
2	小原明恵	東京大	4m87
3	森村あかね	京都大	4m83
6	大久保渥子	東京大	4m25

女子砲丸投決勝

1	河合春菜	京都大	6m59
2	野尻真裕美	京都大	6m53
3	河本和美	東京大	6m01
4	宮崎彩	東京大	5m75

女子トラック順位

1	京都大	23
2	東京大	23

女子フィールド順位

1	京都大	13
2	東京大	7

女子総合順位

1	京都大	36
2	東京大	30

2 新主将・新女子主将・新主務の言葉

2.1 新主将の言葉

倉員 智瑛

新たに主将を務めることになりました跳躍パート3年の倉員智瑛です。今年も我が部の主要な試合は箱

根駅伝予選会を残すのみとなりました。数多くの先輩方に応援していただいたこともあり、今シーズン我が部は四大戦、七大戦、一橋戦と立て続けに対校戦で勝利することができました。近年忘れかけていた勝利の味を思い出すことができ、非常に盛り上がりを見せた1年になったと思います。関東インカレ8点、京大戦敗北という結果は満足できるものではありませんが、それでも来年に向けて大きな希望を持つことのできるシーズンとなりました。今後も部員一同飽くなき向上心を胸に、更なる飛躍を目指していきます。1年間、よろしく願いいたします。

2.2 新女子主将の言葉

宮崎 彩

新女子主将になりました跳躍パート3年の宮崎彩と申します。いつも数々のご支援、ご指導をいただき感謝しております。ありがとうございます。

今年度は、4年生の強い先輩方にリードされ支えられて、少人数ながらもそれぞれがベストを尽くした一年でした。選手総勢7名でありましたが、先日行われた京大戦ではOB・OGの皆様に支えられ、京都大学と激しく戦う事ができました。しかし、そのチームのベースであった4年生が引退し、女子部は3人という少人数からの苦しいスタートを強いられています。私たちはまず競技でできるだけの部員獲得に努め、これからの1年間で強いチームを目指していきたくて考えております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2.3 新主務の言葉

山本 卓典

日頃からのご声援、誠にありがとうございます。部の活動が現在このように成り立っておりますのはひとえに先輩方のご支援があってこそであります。

本年度も陸上運動部は、『より速く、より高く、より遠くへ』を目指し、邁進いたします。私個人のみならず、部員一人ひとりが、先輩方の脈々と築いてこられました良き伝統に恥じぬよう、日々の鍛錬と部の運営に、非才ながら尽くして参る覚悟であります。今後ともかわらぬご支援を賜りますよう、心よりお願いいたします。対校戦の際は、是非とも競技場へ足をお運び下さいますように。

3 自己記録更新者一覧 2006.9.10 ~ 10.8

9/9 全日本チャンピオンシップ(平塚)
3000mSC 石原宏尚(3年) 9'17"99

9/23 日体大長距離競技会(日体大)
10000m 山崎貴裕(1年) 33'26"21
10000m 石原宏尚(3年) 31'20"20

10/8 京大戦(西京極)

800m	須田遊人(1年)	2'06"37
800m	西川鋭(1年)	2'11"09
800m	平原唯灯(4年)	2'03"59
5000m	梶井峻介(2年)	16'12"76
110mH	梅沢啓(4年)	15"51(+1.3)
走幅跳	小原明恵(4年)	4m87
円盤投	小林宗隆(3年)	31m68
ハンマー投	合田隆彦(4年)	34m59
砲丸投	宮崎彩(3年)	5m75
砲丸投	河本和美(4年)	6m01

4 2006年度部内5傑 2006.10.8 現在

男子 100m

1	渡辺 裕太(1年)	10"93(+0.5)	7.30
2	石田 貴巳(1年)	11"19(± 0.0)	7.30
3	田中 啓太(3年)	11"20(+1.9)	5.3
4	斉藤 拓海(2年)	11"23(+0.4)	7.30
5	尾崎 翔(2年)	11"24(+0.8)	6.17

男子 200m

1	渡辺 裕太(1年)	22"16(+1.9)	5.20
2	瀧山 健(4年)	22"66(+0.7)	7.30
3	今村 岳(3年)	23"15(+0.2)	7.30
4	三好 信哉(4年)	23"54(+0.1)	7.30
5	福田 篤(3年)	23"56(+1.3)	8.27

男子 400m

1	深澤 眞楠(2年)	50"72	5.5
1	伊勢田 明弘(4年)	50"72	5.27
3	今村 岳(3年)	51"21	4.29
4	梶岡 利之(2年)	51"40	7.8
5	小澤 聡(3年)	51"70	7.2

男子 800m

1	新井 邦生(4年)	1'53"50	5.21
2	黒澤 徹也(4年)	1'56"66	6.25
3	小澤 聡(3年)	1'57"48	5.5
4	野村 圭吾(1年)	1'59"47	9.9
5	斉藤 俊(3年)	1'59"55	7.8

男子 1500m

1	石原 宏尚(3年)	3'59"84	4.2
2	黒澤 徹也(4年)	3'59"87	4.29
3	松本 翔(3年)	4'00"91	7.30
4	斉藤 俊(3年)	4'01"56	4.29
5	新井 邦生(4年)	4'04"33	4.2

男子 5000m

1	松本 翔(3年)	14'57"51	6.25
2	石原 宏尚(3年)	15'09"80	6.25
3	片岡 哲朗(4年)	15'38"27	6.25
4	岡田 良平(4年)	15'43"46	6.25
5	千島 悠司(4年)	15'44"04	10.8

男子 10000m

1	松本 翔(3年)	30'57"60	9.23
2	石原 宏尚(3年)	31'20"20	9.23
3	斉藤 俊(3年)	32'33"06	9.23
4	岡田 良平(4年)	33'01"32	9.23
5	千島 悠司(4年)	33'05"37	9.23

男子 110mH

1	尾崎 翔(2年)	14"90(-0.2)	7.9
2	梅沢 啓(4年)	15"51(+1.3)	10.8
3	持永 新(4年)	16"94(+0.7)	6.3
4	堀内 敦史(2年)	18"32(+1.3)	10.8

男子 400mH

1	伊勢田 明弘(4年)	56"27	7.30
2	相川 啓佑(4年)	57"71	10.8
3	門脇 啓太(2年)	58"90	10.8
4	深澤 眞楠(2年)	59"39	5.27
5	坂田 祐輔(4年)	61"29	7.30

男子 3000mSC

1	石原 宏尚(3年)	9'17"99	9.9
2	岡田 良平(4年)	9'34"90	7.30
3	山口 健介(3年)	10'01	6.11
4	山崎 大(4年)	10'07"48	7.8
5	梶井 駿介(2年)	10'31"04	6.18

男子 走幅跳

1	尾崎 翔 (2年)	7m42	7.8
2	竹内 昌男 (4年)	7m37	7.30
3	武安 光太郎 (2年)	7m01	4.29
4	相川 啓佑 (4年)	6m76	4.23
5	佐野 太郎 (4年)	6m43	7.8

男子 三段跳

1	武安 光太郎 (2年)	14m74	7.30
2	佐野 太郎 (4年)	14m46	5.14
3	倉員 智瑛 (3年)	14m42	7.30
4	深澤 眞楠 (2年)	11m87	4.2

男子 走高跳

1	田中 啓 (6年)	2m00	10.8
2	持永 新 (4年)	1m80	9.9
3	倉員 智瑛 (3年)	1m75	9.9
4	小福田 大輔 (2年)	1m60	7.30
5	木村 剛 (3年)	1m55	9.9

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (2年)	4m20	4.23
2	持永 新 (4年)	3m80	7.8
3	木村 剛 (3年)	3m40	5.3
4	中村 泰輔 (2年)	2m60	7.8

男子 砲丸投

1	合田 隆彦 (4年)	11m18	4.23
2	持永 新 (4年)	11m00	4.1
3	小林 宗隆 (3年)	10m61	9.9
4	北川 昂広 (2年)	10m43	9.9
5	庄司 宇 (3年)	10m09	5.27

男子 円盤投

1	合田 隆彦 (4年)	38m55	7.30
2	小林 宗隆 (3年)	31m68	10.8
3	庄司 宇 (3年)	30m46	9.9
4	持永 新 (4年)	29m31	6.18
5	田上 遼 (4年)	28m09	7.30

男子 ハンマー投

1	庄司 宇 (3年)	38m99	7.30
2	合田 隆彦 (4年)	34m59	10.8
3	寺島 孝明 (1年)	25m15	7.30

男子 やり投

1	北川 昂広 (2年)	53m33	7.30
2	関原 孝之 (3年)	49m22	10.8
3	石井 仁也 (5年)	47m61	10.8
4	葉梨 輝 (2年)	41m30	9.9
5	持永 新 (4年)	41m15	4.2

男子 十種競技

1	持永 新 (4年)	5650点	6.17,18
---	-----------	-------	---------

女子 100m

1	小原 明恵 (4年)	12"99(+0.7)	7.30
2	大久保 渥子 (1年)	13"85(+0.4)	7.30
3	宮崎 彩 (3年)	15"42(-0.5)	9.9

女子 400m

1	小原 明恵 (4年)	61"21	7.8
2	日下 桃子 (1年)	63"09	9.9

女子 800m

1	日下 桃子 (1年)	2'21"17	7.30
2	向田 恵 (4年)	2'27"01	4.1

女子 1500m

1	向田 恵 (4年)	4'53"52	4.29
2	日下 桃子 (1年)	5'08"65	9.9
3	清水 里紗 (4年)	5'37"14	9.9

女子 3000m

1	向田 恵 (4年)	10'25"92	5.27
2	清水 里紗 (4年)	12'29"96	10.8

女子 棒高跳

1	宮崎 彩 (3年)	1m50	4.23
---	-----------	------	------

女子 走幅跳

1	小原 明恵 (4年)	4m87	10.8
2	大久保 渥子 (1年)	4m32	7.30
3	宮崎 彩 (3年)	4m09	9.9

女子 砲丸投

1	河本 和美 (4年)	6m01	10.8
2	宮崎 彩 (3年)	6m50	10.8
3	清水 里紗 (4年)	5m31	9.9

5 主務より

主務 長澤 寛規

京大戦に応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々のお名前をご紹介させていただきます。京都まで足をお運びいただきありがとうございました。(敬称略)

1948年卒 浦野穂昌
1950年卒 笹治峻
1953年卒 井上尚男
1954年卒 八島秀雄
1956年卒 土谷喬
1956年卒 村田歆吾
1969年卒 中谷敬二
2003年卒 相原佑康
2003年卒 橋本武
2003年卒 川添雄太
2003年卒 川添祐佳
2004年卒 熊丸拓郎
2005年卒 桑原明
2006年卒 稲垣誠

文責：今村 岳